



萬世の大路

第22号
平成29年8月25日発行

発行者
歴史の道土木遺産万世大路保存会
会長 梅津 幸保

事務局
万世コミュニティセンター
☎0238-28-5381

題字は村山道雄 元山形県知事



万世大路、旧栗子隧道を訪ねて

米沢市地方創生参事 武 発 一 郎

五十年近く暮らした東京を離れて四月に米沢に着任して以来、様々な方とお話をし、酒を酌み交わし、或いは一人を訪ねては、米沢の魅力・奥深さを味わい感銘を受けた。それをもとにしたフェイスブックの発信は既に百回を超えた。それほど、この米沢には人を惹きつけて止まない魅力や、素晴らしい資産があると思う。

六月にお誘いいただいた万世大路を歩

く会もそのひとつである。軍艦島に代表されるように、今や廃墟となった産業遺産であっても、ある種のノスタルジーと残留思念とエロチシズム？とが化学反応した貴重な観光資源となりうる。万世大路及び旧栗子隧道もまさにそうである。

初代隧道の崩れかけた入り口の前に、「この峻険な峠に道を通し米沢と福島をつなごうとした文明開化の志と、極寒の

中で岩を穿った労働者の想像を絶する労苦が、その後の奥羽本線につながり、現十三号栗子トンネルにつながり、開通予定の東北中央自動車道第四代栗子トンネルにつながっている。『そう思うと、思わず手を合わせたくなるような、聖地にいるような感動を覚えた。また、万世大路の由来をまとめたハンドブックは、史料や証言をベースにして読み応え十分であったし、二時間近く歩いた後いたただいたサバ入りの山菜汁は、今まで食べたどんな山菜汁よりも暖かく美味しかった。

こうした行事を通じて大切な地域遺産を守り、発信されている万世地区の皆さんの努力に心から敬意を表したい。地域の方々のこうした主体的な発信も、「米沢ブランド」として誇れるものの一つであると私は思う。

何事のおわしますかは知らねども
かたじけなさに 涙こぼるる

(西行)

歴史遺産を次世代に継承

道の駅米沢駅長 坂川 好 則

「道の駅米沢」が来春、東北中央自動車道米沢中央インターチェンジ（IC）近くにオープンします。

また、東北中央自動車道福島〜米沢北IC間は今年度中に開通する予定です。福島から米沢までの所要時間は現在の約四十分から二十分に大幅に短縮され、しかもこの区間は通行料が無料となります。これらのメリットを生かすことで、特に福島方面との観光交流人口の拡大や関東方面への物流の効率化な

どで、地域の活性化が大いに期待されます。

歴史をさかのぼると、初代山形県令三島通庸は、「山形県は三方山に囲まれ、道路を整備しなければ物資の輸送や人の交流ができず、発展は望めない。」と考へ、栗子山の中腹に当時では難工事である日本最大の隧道を掘り、明治十四年に「万世大路」が完成しました。荷馬車も通行可能になり、当時としては相当賑わいました。工事に至った経緯

や工事の苦勞など詳しく千七百十四字にも及ぶ漢文で刻まれているのが「栗子隧道碑記」の碑です。碑は明治十五年に栗子隧道西口に建立され、その後栗子国道維持出張所に移転していました。この度、道の駅米沢の北側に移設されることになりました。また、道の駅の道路情報コーナーでは万世大路の紹介画像を流す予定です。現在、明治から数えて第四世代となる東北中央自動車道の開通。「万世大路」の開通と同様に、山形県の物流や人々の交流拡大に大きな貢献が期待されます。先人の偉業を知り、しっかりと継承していく事で次世代に繋がるものと信じ保存に努めてまいります。